

・日本心臓財団佐藤賞

(※回数、タイトル、受賞者氏名(敬称略)、所属 を記載しております)

第 50 回(2024 年度、第 89 回学術集会)

シングルセル解析による循環器精密医療の発展

野村 征太郎

(東京大学医学部附属病院 循環器内科 先端循環器医科学講座)

第 49 回(2023 年度、第 88 回学術集会)

循環器多因子疾患のゲノム解析と精密医療の実現

伊藤 薫

(理化学研究所生命医科学研究センター 循環器ゲノミクス・インフォマティクス研究チーム)

第 48 回(2022 年度、第 87 回学術集会)

老化制御による心不全治療法開発への挑戦

清水 逸平

(順天堂大学医学部内科学教室 循環器内科学講座)

第 47 回(2021 年度、第 86 回学術集会)

神経・免疫細胞ネットワークが駆動する臓器間連携による循環器恒常性維持機構の解明

藤生 克仁

(東京大学大学院医学系研究科 先進循環器病学)

第 46 回(2020 年度、第 85 回学術集会)

循環器疾患の病態解明と治療方法開発へ向けた研究

湯浅 慎介

(慶應義塾大学医学部 循環器内科)

第 45 回(2019 年度、第 84 回学術集会)

多能性幹細胞を用いた心筋再生治療の開発

柴 祐司

(信州大学医学部再生医科学教室)

第 44 回(2018 年度、第 83 回学術集会)

難治性循環器疾患のオミックス解析による病態分子機序解明と診断法および創薬開発

朝野 仁裕

(大阪大学大学院医学系研究科 循環器内科学講座)

第 43 回(2017 年度、第 82 回学術集会)

心疾患におけるオートファジーの機能解析

山口 修

(大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学)

第 42 回(2016 年度、第 81 回学術集会)

基礎研究の臨床応用による心血管系疾患の新規治療法開発

佐藤 公雄

(東北大学 循環器内科・臨床医学開発室)

第 41 回(2015 年度、第 80 回学術集会)

心臓発生メカニズム解明と新しい心筋再生法の開発

家田 真樹

(慶應義塾大学医学部 循環器内科)

第 40 回(2014 年度、第 79 回学術集会)

心血管系におけるストレス応答と疾患形成の分子機序

赤澤 宏

(東京大学大学院医学系研究科 循環器内科学)

第 39 回(2013 年度、第 78 回学術集会)

細胞シート工学による立体組織構築法の確立と心筋再生への応用

清水 達也

(東京女子医科大学 先端生命医科学研究所)

第 38 回(2012 年度、第 77 回学術集会)

心血管ホルモンの発現調節及び作用機構の解明に基づく心血管病新規治療標的の探索

桑原 宏一郎

(京都大学大学院医学研究科 内分泌代謝内科)

第 37 回(2011 年度、第 76 回学術集会)

心血管系疾患の分子病態解明

佐野 元昭

(慶應義塾大学医学部 循環器内科)

第 36 回(2010 年度、第 75 回学術集会)

心血管・代謝・腎疾患に共通する基盤病態である慢性炎症の解明

眞鍋 一郎

(東京大学院医学系研究所 循環器内科)

第 35 回(2009 年度、第 74 回学術集会)

心血管系の老化と再生(Molecular Mechanism of Cardiovascular Aging and Regeneration)

南野 徹

(千葉大学大学院医学研究院 循環病態医科学)

第 34 回(2008 年度、第 73 回学術集会)

循環器疾患病態理解のための分子イメージングによる血管内皮・心筋細胞の情報伝達解明

望月 直樹

(国立循環器病センター研究所 循環器形態部)

第 33 回(2007 年度、第 72 回学術集会)

致死性不整脈疾患の遺伝子診断とその臨床応用

清水 渉

(国立循環器病センター心臓血管内科)

第 32 回(2006 年度、第 71 回学術集会)

心不全・不整脈治療標的としてのリアノジン受容体(Ryanodine Receptor as a New Therapeutic Target of Heart Failure and Lethal Arrhythmia)

矢野 雅文

(山口大学大学院医学系研究科 器官病態内科学)

第 31 回(2005 年度、第 70 回学術集会)

循環器疾患の遺伝因子の解明と遺伝子リスク診断システムの開発

山田 芳司

(三重大学生命科学研究支援センター ヒト機能ゲノミクス部門)

第 30 回(2004 年度、第 69 回学術集会)

再生心筋細胞の開発および心肥大形成の分子機構の解明(Development of Regenerated Cardiomyocytes and Analysis of the Molecular Mechanism of Cardiac Hypertrophy)

福田 恵一

(慶應義塾大学医学部 呼吸循環器内科)

第 29 回(2003 年度, 第 68 回学術集会)

心不全における心筋障害進展の細胞・分子機序の解明(Cellular and Molecular Mechanisms for the Development of Myocardial Damage in Heart Failure)

筒井 裕之

(九州大学大学院医学系研究科 循環器内科学)

第 28 回(2002 年度, 第 67 回学術集会)

血管病の病態生理の解明と治療法の開発(Molecular Strategies to Treat Vascular Diseases)

佐田 政隆

(東京大学大学院医学系研究科 循環器内科)

第 27 回(2001 年度, 第 66 回学術集会)

難治性循環器疾患の遺伝子治療の開発

森下 竜一

(大阪大学大学院医学系研究科 遺伝子治療学・加齢医学)

第 26 回(2000 年度)

血管内皮細胞機能と動脈硬化・虚血性心疾患

江頭 健輔

(九州大学循環器内科)

第 25 回(1999 年度)

心肥大の形成機序・心臓の発生と分化の分子機序

小室 一成

(東京大学大学院医学研究科循環器内科)

第 24 回(1998 年度)

冠動脈攣縮の機序に関する研究—モデル作成から分子レベルまでの検討—

下川 宏明

(九州大学循環器内科)

第 23 回(1997 年度)

心筋虚血・慢性心不全におけるアデノシンの心血管保護作用

北風 政史

(大阪大学第一内科)

第 22 回(1996 年度)

心臓移植拒絶反応の病態解明と新しい診断法・予防法の開発

磯部 光章

(信州大学第一内科)

※1995 年度より選考方法を「近年循環器領域で顕著な業績をあげ、今後もこの分野で中心的な役割を果たすことが期待される 50 歳未満の研究者 1 名を受賞の対象とする」に変更し、賞牌と副賞 100 万円としました。

第 21 回(1995 年度)

心筋症の症因・診断・治療に関する臨床的ならびに基礎的研究

松森 昭

(京都大学大学院医学研究科循環病態学)

※1975 年度～1994 年度までは同学会の機関誌として高い学術レベルを誇る英文雑誌「日本循環器学会誌」の 1 年度分 12 号に発表された研究論文の中より優秀論文一編が、その年の日本循環器学会の会長のもとで選考され、同学会総会において賞牌と副賞 50 万円が贈呈された。

第 20 回(1994 年度)

日本・韓国・インド間における高安動脈炎の比較研究—臨床症状、動脈造影所見 HLA-B 抗原の比較—

矢島 途好

(名戸ヶ谷病院院長)

第 19 回(1993 年度)

高血圧性肥大心における虚血心筋障害におよぼす心肥大退縮の効果—高血圧自然発症ラットにおける検討—

岡本 清貴

(旭川医科大学)

第 18 回(1992 年度)

非不全期大動脈弁逆流症における運動時交感神経刺激に対する心応答低下

松山 泰三

(八尾市立病院)

第 17 回(1991 年度)

経皮的冠動脈形成術 (PTCA) 後再狭窄をきたす患者の血清は培養牛血管平滑筋細胞の増殖を低細胞外カルシウム条件下で刺激する

城谷 学

(京都大学)

第 16 回(1990 年度)

ラット心臓の心房性ナトリウム利尿ペプチド (ANP) の分泌調節機構 —機械的伸展による ANP 分泌に対する Ca^{2+} 依存性情報伝達—

加藤 秀平

(名古屋大学)

第 15 回(1989 年度)

ウイルス性心筋炎における免疫学的心筋細胞障害機構

出口 寛文

(大阪医科大学)

第 14 回(1988 年度)

心筋梗塞モデルでのリエントリー性心室頻損症に対する高頻度心室ペーシングの影響

小川 聡

(慶応義塾大学)

第 13 回(1987 年度)

高血圧患者とシャイ・ドレイガー症候群患者及び正常血圧者における 24 時間の血圧と心拍数変動の相互関係

枡久保 修

(横浜市立大学)

第 12 回(1986 年度)

心筋内冠動脈狭窄の発生機序

大西 一男

(神戸労災病院)

第 11 回(1985 年度)

心筋内高エネルギー磷酸化合物の心周期内変動における収縮初期エネルギー消費亢進の意義

楠岡 英雄

(大阪大学)

第 10 回(1984 年度)

大きさの異なる心臓の収縮末期圧容積関係と E_{max} の正規化

菅 弘之

(国立循環器病センター研究所)

第 9 回(1983 年度)

抑制された N チャンネルによる遅い伝導に対するリドカインとベラパミルの効果, カテコラミンによるイオンチャンネル移行現象との関連

有田 眞

(大分医科大学)

第 8 回(1982 年度)

日本における脳卒中と高血圧の食餌性危険因子 (part 1~3)

家森 幸男

(島根医科大学)

第 7 回(1981 年度)

血中心筋ミオシン軽鎖 II の測定による心筋梗塞の大きさの推定—実験的心筋梗塞における検討—

永井 良三

(東京大学)

第 6 回(1980 年度)

特発性心筋症における心内膜心筋生検の組織病理—多変量解析による定量的平価—

野田信一路

(大阪医科大学)

第 5 回(1979 年度)

「川崎病の原理—(1)血管病変の病理及び形態発生, (2)血管病変の分布及び頻度」

天野 殖

(滋賀医科大学)

第 4 回(1978 年度)

先天性心疾患の形態発生—球室部の異常—」

岡本 直正

(広島大学)

第 3 回(1978 年度)

ショックの病態生理

岡田 和夫

(帝京大学)

第 2 回(1977 年度)

動的運動時における右心作業状態の非侵襲的評価, 特に左心疾患について

平川 千里

(岐阜大学)

第 1 回(1976 年度)

高血圧自然発症ラットの種々亜系における血管病と慢性食塩負荷の影響

狭間 章忠

(京都大学)